社協だより
そはら
No.24　平成10年7月15日
発行　各務原市社会福祉協議会
蘇原北部支部

平成10年度　各務原市社会福祉協議会
蘇原北部支部総会　4月30日

4月30日、新役員さんと年間活動計画・年間予算が可決されました。

私の骨はだいじょうぶ？

総会のあと、八木沢整形外科医院長、八木沢芳生先生の「骨粗しょう症と骨折」のお話しに、皆さん熱心に耳を傾けました。

平成10年度　蘇原北部支部年間活動計画

年月	活動内容
10年4月	新役員選考 年間活動計画・予算案作成 理事会 総会
5月	理事会 交通安全横断旗の補充・点検・修理 危険箇所の点検
6月	理事会
7月	理事会 福祉講演会 会費趣旨説明会 支部だより発行（第24号）
8月	理事会 親子ふれあい映画会 小学生車椅子体験学習 地域介護講習会
9月	理事会 福祉フェスティバルに参加 友愛訪問（ねたきり老人対象） 小学生による敬老のたより 敬老のつどいに参加 市民運動会の共催
10月	理事会 福祉座談会 共同募金・歳末たすけあい運動の推進
11月	理事会 ひとり暮らし老人を囲む会 市社会福祉大会へ参加 先進他地区との交流訪問
12月	理事会 歳末福祉座談会 （70才以上夫婦のみの家庭対象） 高齢者祝品の贈呈（卆寿）
11年1月	ホームヘルパーと語る会
2月	理事会 高齢者健康づくり教室
3月	理事会 総会 支部だより発行（第25号）

〝社協会員募集のお願い〟

一般会員　年額　五〇〇円以上
特別会員　年額　一、〇〇〇円以上

八月は社協会員募集月間です。今年も自治会長さんや、班長さんを通じてお願いしますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

福祉講演会
―― 6月16日 ――

講師は医療法人五島医院　五島英一先生

―― もう、こわくない糖尿病 ――
先生の分かりやすいお話しに、皆さんは熱心に耳を傾け、2、3の質問も飛び出し、関心の深さがうかがわれました。

平成10年度　蘇原北部支部役員名簿

役職名	氏名
支部長	河村一次
副支部長	林誠
〃	伊藤正憲
福祉支部長 福祉推進員	杉浦幸男
〃	遠藤孝司
理事	大堀清
〃	小栗静彦
〃	水野勇
〃	河合厚夫子
理事（会計）	河合照光
理事（書記）	林八郎
監事	坂井嘉雄
〃	飯沼泰子

評議員

横山修一	横山富士雄	横山勝	水野繁美	大堀豊紀	小林好三	坂井照男	広瀬勇	小川英郎	伊藤一隆	兼松一二
八木利光	川島章正	小林義輝	堀部勝	植竹芳裕	寺田裕	飯沼守	和智義和	立浪晃信	三丸文也	小林稔
藤村日出男	高木太郎	繁田英三	花田澄子	水野美佐子	巌城護	坂井久子	奥田春子	吉原育子	寺尾二三雄	山本繁雄
北岡幸	清水ユキ子	飯沼栄子	水野友子	五島伸治	倉田宜幸	各務敏	川上真吾	武山米子	安田重子	小野美寿子
小野木洵子	遠藤喜久恵	大堀けい子	水野千恵	田澤綾子	蒲久美江	河合わか江	箕浦八重子	伊藤日出子	坂井たづ子	小林みね
広瀬淳喜	河村一子	桑名彩	水野信枝	石井千恵子	森前鶴美	広井正子	広井澄恵	飯沼正典	飯沼さなゑ	本川栄一
竹田則子	澤野正子									

相談役　水野健次　石田義美

こんなことで未来はあるのか

各務原市社会福祉協議会
蘇原北部支部長　河村一次

今、世間を駈け巡り私たちの頭上に新たな恐怖をもたらしつつある物質、それが「環境ホルモン（別名、外因性内分泌攪乱化学物質）」である。

ホルモンとは、本来、体内で行なわれている様々な代謝を調節し、体が絶えず良好の状態に保たれるような働きをしてくれている極めて良性なものと信じていた。ところが、マスコミ報道によると「環境ホルモン」のせいで、地上の生物が「メス化」しているという。更に、人間も男性の精子の数が減り続けてきて、子供を作れない男性が激増する可能性があり、正常な精子をもつ二十代の男性は、五十人中わずか二人しかいかったというショッキングなデータを明らかにした。そして、このような報道のあまりの多さと問題の深刻さに過剰な危機感に苛まれているのである。人間が自分達の手でつくり出して世界中に撒き散らした物質「環境ホルモン」が自ら性ホルモンになりすまして性を攪乱する動きを秘めている。そこで、「環境ホルモン」とは、どのようなものなのか、その正体の真実を探らねばならない。

「環境ホルモン」の恐ろしさは、どれだけ種類があるのか判らず、しかも十分に解明されていないことである。化学合成物質は、現在使用されているだけでも数万種類あって、今のところ、七十種類ほどが環境ホルモンとして疑われている。代表的なのは、プラスチック容器や発泡スチロールなどに含まれるスチレンやポリ塩化ビフェニール（ＰＣＢ）、塩ビ可塑剤のＤＥＨＰ、それに廃棄物を燃やす際に発生するダイオキシンである。

しかも、現代の科学では、現在、これらの殆どを分解することも毒性を除くこともできない状態にある。製造中止となって十数年も経ってる殺虫剤のＤＤＴも環境ホルモンの一つだが、未だに南極や北極で検出されていると云われている。

今、最も新聞紙上を騒がしている代表的なものが、サリンの2倍と云われるダイオキシンの恐怖である。

水が危ない。空気が危ない。食物が危ない。そして、子供が危ない。ダイオキシンは大気中を何処までも飛んで行って、水中や土壌にしみ込んで、魚や動物、植物に吸収され、最後に濃縮されたうえ、食物連鎖の最高位にある人間の体内に侵入し、しかも、いったん体内に入ると排出され難く、母体を通して胎児へ、母乳を通じて乳児に入り込んで、次の世代へ、さらに子孫へと影響を及ぼし、人類の存続にまで危惧を与えることになる。

日本は世界一ダイオキシン発生量の多い国と云われ、その結果発ガン性ありとまで診断されている。人体汚染が極めて深刻なことを考えれば、産業界は勿論のこと、官民一体となって廃棄物の排出削減と再利用を促進し、廃棄物の焼却量を減らす地球規模の大運動を今すぐに開始すべきである。

環境庁の調査によると、哺乳類と鳥類の百三十七種が「絶滅のおそれ」ありと報じており、子孫を残せなくなった野生生物が次々と発見されてきている。

本来のホルモン攪乱による労力不振、家庭崩壊、幼児虐待、社会に蔓延する暴力との関連にも注意を喚起すべきであり、現状の科学のままでは、環境ホルモンの謎を解明はできないだろう。

欧米では、一九八〇年代から環境汚染発生源抑制対策が進められてきたというのに、我が国では世界最大のごみ排出焼却国でありながら昨年まで法的基準値すらなかった程である。その結果として大気汚染濃度は欧米諸国に比べて十数倍高く、人体汚染度も世界的にみて重症といっても過言ではない。

この問題は、国家的プロジェクトとして積極的に対応すべきであり、絶対善のように信じ成長を求めてきた物質文明、科学万能主義を見直す必要があり、自分たちの利便さ、心地よさのために、あまりに「不自然なもの」を作りすぎ、その過程で多くの動物や植物を絶滅に追い込んで来た。

人類はこれまで様々な毒物を薬物に転じるという素晴らしい研究に取組んで来たが、飽くなき物質文明への挑戦が、ここへ来て抑制することに気付き良い機会を与えてくれたと云えるのではないだろうか。

今、二十一世紀を前にして、科学の最前線でものすごい変化が起こっていることを知り、地球規模の環境問題への解決に人類の自覚と意志を呼びます引き金となってくれることを望むものである。

〔サポート君〕

ささえて、ささえられて

平成10年度　蘇原北部支部予算書

＊収入の部

科目	本年度予算（円）
交付金	780,000
モデル推進支部交付金	100,000
支部だより発行	320,000
会費趣旨説明会	7,000
ひとり暮し老人を囲む会	20,000
福祉座談会	25,000
その他の助成金等	50,000
繰越金	482,117
雑収入	500
合計	1,784,617

＊支出の部

科目	本年度予算（円）
事務費	70,000
福祉教育事業費	150,000
友愛訪問事業費	70,000
支部育成事業費	35,000
福祉座談会	45,000
ひとり暮し老人を囲む会	63,000
親子ふれあい映画会	45,000
支部だより発行	320,000
会員募集事業	70,000
高齢者健康づくり教室	30,000
歳末特別事業費	60,000
啓発事業	70,000
ふれあい事業	260,000
生きがいづくり事業	30,000
生活環境づくり事業	50,000
総会費	80,000
予備費	336,617
合計	1,784,617

夏休み親子ふれあい映画会

◆日時　８月３日（月）PM７：00～
◆場所　第一小体育館

夏の夜のひととき、ご家族おそろいでお出掛けください。

道路横断はバッチリ――５月13日――

新しい交通安全横断旗を追加しました。